

Ⅲ ヒアリング調査からみた企業の声

1 製造業

(1) 一般機械器具

【景況感】

- ・世界的な景気動向の影響を受けやすく受注が減少傾向である。
- ・景況感は弱含みである。
- ・中国経済停滞の影響により受注量が減少している。

【売上げ】

- ・受注量減少により売上高が前年同期比で15%減少している。
- ・前年同期比で10%減少した。

【品目別の状況】

- ・半導体関連の受注減少が目立っている。

【受注単価】

- ・不採算品目の価格見直しにより受注単価が上がった。
- ・OEM先との価格交渉は難しい。
- ・値上げ交渉は行っているものの実現には至っていない。

【原材料価格】

- ・鉄材の仕入価格上昇は続いており、今後更なる値上げの可能性もある。
- ・原材料価格の上昇は終息した感がある。

【その他諸経費】

- ・外注費や物流費が上がっている。
- ・消耗品費が上がっている。

【採算性】

- ・売上減少の影響し営業利益が前年同月比で20%減少した。
- ・売上減少の影響が大きく採算性は悪化している。

【設備投資】

- ・新規受注に対応するための製造設備を導入した。
- ・外注加工の内製化を目的とした設備を導入した。

【今後の見通し】

- ・米中貿易摩擦等により世界経済の先行きは不透明、受注減少はまだ続く見込み。
- ・受注減少に伴う競争激化により受注単価の引下げがあるかもしれない。
- ・今後自動化機械の関連受注が増加する見込みであるが、まだ立ち上がりの時期等は不透明である。

(2) 輸送用機械器具

【景況感】

- ・全体として状況は良くないが、大きく悪化するという感じでもない。
- ・EV化や自動運転など業界の激変期にあり、先行きは不透明である。
- ・米中貿易摩擦の影響があると考えられる。

【売上げ】

- ・特定の客先の受注だけが減っているのではなく、平均的に減少している。
- ・新規受注案件については、生産計画に遅れが生じている。
- ・既存受注は横ばいであるが、新規受注獲得により前年同期比で10%増加した。

【受注単価】

- ・主要な客先からのコストダウン要請により低下した。
- ・客先への単価見直しの結果により受注単価は改善している。
- ・過度に安く受注することを禁止しており受注単価は下がっていない。

【原材料価格】

- ・銅系素材の値動きの幅が大きい。
- ・鉄やステンレスの値動きはあまりない。

【その他の諸費用】

- ・新規受注分の立ち上げのための諸経費が増えた。
- ・猛暑によりエアコン使用料が増加したため電気代が増えた。
- ・若手社員定着のために福利厚生に力を入れており、その分の経費が増加している。

【採算性】

- ・売上げの減少に伴い採算性も悪化した。
- ・単価見直しの結果により採算性は改善している。
- ・新規受注獲得による売上げが増加し、採算性は改善した。

【設備投資】

- ・自動化に関する設備投資はしている。
- ・IT補助金を活用し生産管理システムを導入した。

【今後の見通し】

- ・消費増税の影響が出てくると思う。
- ・米中摩擦、日韓関係悪化の影響で景況感は悪化する見込み。

(3) 電気機械器具

【景況感】

- ・米中貿易摩擦の影響により市場は冷え込んでいる。
- ・中国向け輸出は減少しており、景況感は良くないと感じている。
- ・客先では韓国向け受注が減ったとの声をきく。
- ・国内の売上げが前年同期比で微増した。海外事業は前期・前年同期比で引き続き好況である。

【売上げ】

- ・前年同期比で10%減だが、医療関係の売上げは安定している。
- ・グループ全体で売上げが伸長した。
- ・受注減少により前年同月比で20%程度減少した。

【原材料価格】

- ・中国経済減速の影響で銅価格が下降気味である。
- ・ほとんど変わらない。
- ・原材料は支給されることから原材料価格の変動はない。

【その他の諸費用】

- ・工場はエアコンが24時間稼働しているため電気代が高く、エアコン本体の消耗も早いため買替費用がかさんでいる。
- ・電力費が上がっている。

【採算性】

- ・受注減少に伴い売上げが減少、残業代の削減等を行っているものの収益性は悪化している。

【設備投資】

- ・補助金を利用して設備投資を実施予定である。
- ・5G関連受注に対応するため新規にクリーンルームを設置した。

【今後の見通し】

- ・米中貿易摩擦の影響を受けるので先行きはどちらともいえない。
- ・良くなる要素が見当たらない。
- ・景況感は今が底だという声もあるが、いつから回復するのかは分からない。

(4) 金属製品**【景況感】**

- ・米中貿易摩擦の影響が出ている。
- ・中国向けの製品を製造している業者は苦戦している。
- ・板金業界は業績が二極化している。

【売上げ】

- ・受注減少により前年同月比で10%減少した。
- ・特定の業種ではなく全般的に売上げが減少傾向である。

【品目別の状況】

- ・半導体関連は不況であったが、台湾メーカーの台頭により受注が出てきた。
- ・塗装業は後継者不足で業者数が減っているように感じる。

【受注単価】

- ・受注が減少しており、受注を獲得するためには単価引上げ交渉は出来ない状況。
- ・既存リピート品では値下げ要請があるため、新製品を開発することで受注単価を維持している。
- ・受注量が減少する分単価の見直しを交渉、その結果受注単価が上昇した。

【原材料価格】

- ・鉄とステンレスは下がった。
- ・アルミが3%程度上がった。
- ・アルカリ系の脱脂剤が10%程度上がった。

【その他の諸費用】

- ・外注に出していた工程を内製化することで外注費が大幅に削減できた。

【採算性】

- ・売上げが減少している中、人件費や材料費が上昇したことから採算性は悪化した。
- ・受注減や材料費高騰があるものの、外注費削減により採算性は向上した。

【設備投資】

- ・設備投資は老朽設備の更新投資しか行わなかった。
- ・業務効率化に資するシステム導入を実施予定。

【今後の見通し】

- ・米中貿易摩擦の先行きが不透明であり、今後の先行きも厳しい。
- ・消費増税後の状況が読めない。
- ・半導体関連の動きが良くなるとみている。

(5) プラスチック製品

【景況感】

- ・米中摩擦の影響はほとんど感じない。
- ・プラスチック関係では、中国の医療関連向けが好調のようだ。
- ・コンビニ、スーパーからの什器受注が減少傾向である。

【売上高】

- ・自動車関連や医療関連は良い。
- ・建築や医療関連については、消費増税の駆け込み需要はみられない。

【受注単価】

- ・客先に単価見直しをお願いした結果、良くなってきている。
- ・値上げが実現したものもあるが、値下げとなったものもあり全体的にはあまり変わらない。

【原材料価格】

- ・全体的には高止まり感があるが、射出成型用の材料は下がっている。
- ・全体的に原材料の在庫が増えている感じである。
- ・ナフサの価格も落ち着いており、原材料価格もあまり動いてない。

【人件費】

- ・働き方改革により残業代は減少している。
- ・夏のボーナスを増やしたため増加した。

【採算性】

- ・単価見直しの影響で採算性は良くなっている。
- ・残業の削減により採算性が向上している。

【設備投資】

- ・工場内空調設備を導入した。
- ・工作機械が即納状態とのことで、設備投資を実施する予定である。

【今後の見通し】

- ・予測は難しいが、消費増税の影響で消費は落ち込むと考えている。
- ・受注はあまり活発でなく、消費増税の反動も考慮し減収を見込んでいる。

(6) 食料品製造

【業界の動向】

- ・納入先からの品質要求が強まっており、H A C C P等の認証取得がより重要になっている。
- ・菓子の販売チャンネルはコンビニや大手スーパーが台頭、それらに納入するためには大量生産の能力と高い品質管理体制の構築が求められており、小規模業者には厳しい状況となっている。

【景況感】

- ・ 7月の梅雨寒の影響で季節商品の販売が奮わなかった。
- ・ 食料品の消費量は落ちておらず、景況感は前年同水準である。

【売上高】

- ・ 製品単価を引き上げたことにより売上高が前年同期比で10%増加した。
- ・ お盆の需要が旺盛であり売上増加に寄与した。

【受注単価】

- ・ OEM部門は納入先との関係上価格交渉が難しい。
- ・ 春先の値上げにより受注単価は上がっている。

【原材料価格】

- ・ 7月に小麦粉の仕入価格が1袋当たり25円減少した。
- ・ 鶏卵が生産過剰気味であり、液卵の仕入価格が減少傾向である。

【人件費】

- ・ 受注増加に伴い残業代が増加した。
- ・ ガバナンス強化のためプロ人材を採用、その結果人件費が上昇した。
- ・ ベースアップや賞与の増加等、人員確保のために人件費は上がっている。

【採算性】

- ・ 売上増加と材料仕入価格の減少により増収となった。

【設備投資】

- ・ 新規受注に向けた包装機を導入した。
- ・ 冷凍設備を導入した。

【今後の見通し】

- ・ 新規受注獲得により売上げは増加するとみている。
- ・ 原材料価格が低下傾向であり、当面採算性は改善する。

(7) 銑鉄鋳物**【景況感】**

- ・ 米中貿易摩擦の影響で不況である。

【売上高】

- ・ 4月～6月で落ち込んだ売上げがまだ回復していない。

【受注単価】

- ・ 特に変化はない。

【原材料価格】

- ・ 銑鉄の価格が上昇傾向。

【人件費】

- ・ 人件費に特に変化はない。

【設備投資】

- ・ 設備投資は老朽設備の更新のみ実施した。

【今後の見通し】

- ・米中貿易摩擦の先行きが不透明であり、今後の見通しはどちらともいえない。
- ・原材料価格の上昇もあり、売上高の回復はまだ見通せない状況である。

(8) 印刷業

【景況感】

- ・プレミアム商品券やオリパラ関連など特需があった。
- ・昨年度はとにかく受注が少なかったが、その苦しい状況からは普通に戻った感じである。
- ・業界としては、ロット減、単価下落の傾向は変わらない。

【売上げ】

- ・売上げ、収益ともに増えた。
- ・駆け込み需要がきている。
- ・全国規模の仕事が安定的に入っている。

【受注単価】

- ・残業規制もあり人件費も見直すので、この機に単価の安いものは見直していきたい。
- ・取引先から受注単価の値下げ要請があったが、工程ごとの単価は下げずに工程数を減らすことにより、対応する予定。
- ・紙やインクの値上げはあるが、大量ロットの受注はないため、影響はそこまで大きくないのでは。

【原材料価格】

- ・紙の値上がりは、ここにきてほぼ初めてである。
- ・インクの値上げ要請に対し、ついに大手も承諾したため、当社も値上げに対応した。
- ・当社への値上げ要請はないが今後を見据えて原材料の取引先を増やそうと検討している。
- ・裁断用の刃物やアルミ系の材料が値上がりした。

【採算性】

- ・収益性はそれほど変わらない。

【設備投資】

- ・大型プリンタの刷新を検討している。
- ・印刷機の導入に際して、補助金を活用したいと考えている。
- ・商品券の受注に伴い、情報処理の機械を導入した。

【今後の見通し】

- ・毎年定例の受注が入る予定であり、良い方向に向かうのでは。
- ・消費増税後の動きが読めない。
- ・昨年度は後半に受注が増えており、今年度も同様に考えている。
- ・オリパラ関連の特需などもあるが、基本的には普段の仕事に重点を置き、余力で対応していく方向性である。

2 小売業

(1) 百貨店

【景況感】

- ・7月は長雨により夏物衣料品や食品がかなり苦戦したが、8月は回復してきた。
- ・増税を意識してか、ラグジュアリーブランドや時計は、ここ最近伸びており、景況感は普通である。
- ・9月は増税前の駆け込み需要を想定している。

【売上げ】

- ・昨年より平均最高気温が5度以上低く、サンダルなど夏物が厳しかったが、紳士のスーツは増税前の買替需要があり、比較的好調である。
- ・食品は高級志向のニーズもあり、品揃えを強化している。
- ・化粧品は、中国の大量購入の規制の影響もあり、足踏み状態である。

【諸経費】

- ・新卒採用は行うが、全体的には人件費は自然減となっている。
- ・ワーカー世帯では新聞購読も減っているので、デジタルコンテンツの方が見てもらいやすく、経費の削減にもつながる。
- ・紙の広告宣伝は削減していき、ホームページの拡充を図る。

【採算性】

- ・売上げと連動しているため、あまり良くない。
- ・コストダウンを行い、採算性を確保しているが衣料品が売れないと厳しい。
- ・売上減少により、収益も悪化している。

【今後の見通し】

- ・消費増税後の影響が3か月は続くとみている。良くなるのは年明け以降ではないか。
- ・駆け込み需要の反動減はあるだろうが、大きな施策もあるので良い方向に向かうと思いたい。
- ・増税前の駆け込み需要分が相殺され、結果的には悪い方向に向かうのではないか。

(2) スーパー

【景況感】

- ・やや好況であると感じる。景気自体、そこまで悪くないのではないか。
- ・不況である。どこのスーパーも厳しいと思う。
- ・大手スーパーも既存店がマイナスになっているところが多い。

【売上げ】

- ・7月は悪天候だったため、寝具や衣料品の売上げが伸び悩んだ。
- ・徒歩や自転車来店する客が大半なので、悪天候で客足が遠のいた。
- ・8月は回復基調である。
- ・生活用品、家電は駆け込み需要を見込んでいたが予想より伸長してない。

【諸費用】

- ・7月が寒かったため光熱費が昨年度より減少した。
- ・水道・光熱費の使用料を削減している。
- ・最低賃金改定のため人件費が増加する見込み。

【採算性】

- ・売上げは減少しているものの、業務効率の改善により前年同水準の利益は確保した。
- ・ロスをいかに減らしていくかが課題である。

【今後の見通し】

- ・業界では大手が堅調である。見通しとしては悪くはないと思うが、消費者は収入が上がないため、お金を使わないと感じる。
- ・消費増税の影響で来年2～3月まで厳しくなるだろう

(3) 商店街

【景況感】

- ・現実として良くはないのでやや不況ではないか。
- ・7月は雨が多く、祭りなどのイベントも中止が多かった。
- ・7月の長雨のあとは猛暑が続き、好況であるとは感じない。

【来街者】

- ・7月の長雨のあと、8月はだいぶよくなってきたのではないか。
- ・夏休み中、市内の宿泊施設は予約でほぼ埋まっているようだ。
- ・アニメファンはスタンプラリーなど施策もあり、定着している。

【個店の状況】

- ・来街者が減少している影響が個店の売上げにも出ているようだ。
- ・増税前の駆け込み需要は今のところほぼない。
- ・ここ最近の原材料の高騰もあり、増税を機に値上げを検討している。

【商店街としての取組】

- ・恒例の夏祭りを実施した。現在大型商業施設の改装閉店で来街者が減少しているが、イベントは盛況であった。
- ・市の補助金を活用して、3週間程度のスタンプラリーを実施する。1日で終わるイベントより印象が良い。
- ・地元の大学と連携して、SNSを活用した商店街のPR施策を検討している。
- ・下田市との連携プロジェクトであった海中熟成酒の第2弾を予定している。
- ・ちちぶ乾杯共和国のプレイイベントやにぎわい施策を実施した。

【今後の見通し】

- ・消費増税の影響で悪い方向に向かうのでは。
- ・どちらともいえないが、客数の増加は見込めないのだから利益をとっていかないと考えないといけない。

3 情報サービス業

【景況感】

- ・業界・自社ともに好況であると感じる。
- ・好況ではあるが、案件に対して慢性的な人員不足を感じる。

【売上げ】

- ・前年同期比で売上高は微増する見込み。
- ・第1四半期で前年同期比増収増益。公共分野と金融分野が好調。
- ・5月に連休があったため、7月の売上げは微減したが、今後は増加する見込み。

【製品価格】

- ・パッケージ商品の大きな価格変動はない。
- ・価格交渉をしたが上がらなかった。
- ・一定部分の値上げについては時間をかけて交渉し、顧客に理解を頂いている。

【採算性】

- ・7月はボーナス支給で利益が減少したが、8月は改善する見込み。
- ・前年同期比で収益は微増している。

【設備投資】

- ・データセンターのサーバースペースの拡張工事を行った。
- ・画像検査装置関係ほか、設備投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・企業のシステム投資意欲が旺盛だと感じる。人手不足を解消するRPAにニーズがある。
- ・好況が続くと予想される。
- ・世界情勢が流動的であるため、下降傾向であると感じる。

4 サービス業（旅行業）

【業界の動向】

- ・観光バス運行の安全基準厳格化に伴い、業者登録規制が強化されている。その基準を満たせずに廃業する業者が出てきている。

【景況感】

- ・観光需要は堅調である。
- ・団体旅行のニーズも堅調であり、貸切バスの運行状況も良好。

【受注高】

- ・観光需要が旺盛であり、売上高も5～10%程度増加した。
- ・個人受注も法人受注も堅調である。

【受注価格】

- ・バス運賃の増加分を旅行代金に転嫁することが出来ており、受注単価は上昇した。

【採算性】

- ・売上げや受注単価は良化しているものの、人件費の増加等もあり採算性は横ばいである。

【設備投資】

- ・特段行っていない。

【今後の見通し】

- ・オリンピック、パラリンピックを控え観光需要は今後も堅調に推移するとみている。

5 建設業

【業界の動向】

- ・人手の確保が難しくなっており、下請けや材料が確保できないために入札を見送るなどの事象が発生している。
- ・事業承継の際に、建築部門を撤退し賃貸管理専門に転換する等、業容の縮小をする業者が出てきている。
- ・廃業が増えているという話は聞かない。

【景況感】

- ・業界全体の工事件数はあまり変わっていない。
- ・民間工事は弱含んでいるが、公共工事が堅調であり、全体としては景況感に変化はない。
- ・消費増税の影響は特にならない。

【受注価格】

- ・民間工事は工事件数が減少傾向であるため競争が厳しくなっており、受注価格も低下傾向である。
- ・工事単価はあまり変わらない。

【資材価格】

- ・鉄材の上昇も一服する等資材価格は落ち着いている。
- ・人材不足によりガードマンの費用が高止まりしている。

【採算性】

- ・民間工事の競争激化により採算性が悪化した。
- ・建築工事を外注から自社施工に切り替えたことにより採算性が向上した。

【設備投資】

- ・P Cの入れ替えを実施した。

【今後の見通し】

- ・民間工事が減少する可能性がある。
- ・公共工事の件数は堅調に推移するとみている。
- ・消費増税等で景況感が悪化した場合、悪影響が出る可能性がある。